

「神戸ビエンナーレをさらに盛り上げるために 100 人のアーティストが集まる会」 アンケートまとめ

12/7 (土) に「club Q2」にて「神戸ビエンナーレをさらに盛り上げるために 100 人のアーティストが集まる会」が開催されました。そのさいに参加者は 89 名、賛同者は 24 名で、総勢 113 名の方々に「神戸ビエンナーレ」についてのアンケートをお願いしましたが、それらを集約したものを、ひとまず、ご報告させていただきます。

これらのアンケート実施に際しましては、多くの方々からの貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。ひとまずどのようなご意見があったのか？を可視化したいと思います。また、皆さまからお寄せいただいた貴重なご意見をもとにして、神戸ビエンナーレ事務局との「対話」に臨みたいと思います。

神戸ビエンナーレをさらに盛り上げるために、神戸のまち、神戸のアートを盛り上げるために、引き続きのご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

【呼びかけ人】

文 (NPO 法人 DANCE BOX)

クリハラノブユキ (神戸のアートや文化を勝手に応援・宣伝する人)

徳本賀世子 (マダムキキのお店)

陸奥賢 (観光家/コモンズ・デザイナー)

ヤマモトヨシコ (GALLERY2 代表)

※アンケートは、以下の 14 の項目に分けて記載しております。記載内容は百人百様で項目と合致しない部分もあります。あくまでも便宜上のものとお考えください。

【ビエンナーレの内容に関するご意見】

【ビエンナーレの目的に関するご意見】

【ビエンナーレの質に関するご意見】

【ビエンナーレの場所に関するご意見】

【ビエンナーレの体制に関するご意見】

【ビエンナーレの連携・参加に関するご意見】

【ビエンナーレのアーティストに関するご意見】

【ビエンナーレの集客に関するご意見】

【ビエンナーレの広報・発信に関するご意見】

【ビエンナーレの予算に関するご意見】

【ビエンナーレの検証に関するご意見】

【ビエンナーレの実施時期に関するご意見】

【今回のこの集まりに関するご意見】

【その他のご意見】

【ビエンナーレの内容に関するご意見】

国籍や肩書を問わず作品の良しあしで作品が選出され展示される。それを鑑賞できるところがよい。(しかし、「国際コンペなの?」と一般の人が話しているのも耳にしましたが・・・)

神戸の水準はかなり低いと言わざるを得ない。実際、動員数も非常に少ない。

25のコンテナ枠に対して138作品しか応募がない。5人に一人は入選。応募総数は立ち上げ時の約3分の1で、ジリ貧傾向は数字からも明らか。コミックイラスト分野に至っては、入賞29作品に対して応募はわずか38しかない。公募展としても既に失敗していると言わざるを得ない。

公募が主体であるせいで、何を発信したいのかも曖昧。著名作家もいない、テーマ性も乏しい、バラバラな絵花主義。要するに素人の学芸会で、これで10万人以上も人が来る現状の方が驚き。神戸は世界に向かって何を言いたいのか。そこを明確にしていかないと、出品者も観客も離れて行くばかり。

誰もが知るスター作家の招聘は必要不可欠。

ポリシーのあるはっきりした特徴が出せていない。

そろそろ地域のアート系フェスティバル時代が終わっているのかも。ビエンナーレに相乗りではなく神戸独自のポストアート、ポストデザインを志向してクリエイティブな発想をする時期。

公募を中心にした展開で若手アーティストには発表の場となるいい点もあるが、有名アーティストの参加がほとんどなく発信につながっていない。公募参加のアーティストも有名アーティストと一緒に同じ舞台に立てることが、育成につながるのでは?

様々なジャンルで展開されており、悪く見れば絵花的、よく言えばジャンルにこだわっていない。しかし、結局、ジャンルを明示して壁をつくってしまっている。ビエンナーレでのアートは、今までのジャンルをぶっ壊すぐらいの視点があるのでは?決して、これまでの芸術文化を否定しているのではなく、それらを越えたチャレンジの場がビエンナーレでは?

～展のオンパレード。今やアートを展示という側面だけで取り扱うのは、時代遅れではないか?ビエンナーレとして、次の時代を映し出すものであれば、人の生き様や営み、活動として、アートを取り上げる視点があるべき。

どこのビエンナーレよりも、サブカルチャーの要素を取り入れていると思う。今の時代の流れを読んでいて評価したい。

日本の文化であるいけばなを見直すいい機会になった。今の日本に大切なこと。

役所主導だから市民文化祭的にならざるを得ないのでは?市民文化祭はそれはそれで決して悪くないので、そう

するならば名前も変更してきっちりそう宣言すべき。

もうイベントはいいでしょ。全国的にアートイベントが多くなって、アートもイベントのためのアートになってしまっているような。これでは、アートはダメになっちゃう。

船に乗って神戸港を見れるのはいい！これは、神戸ビエンナーレならでは。

メディアアートに偏りすぎ？意図的にそれをしていくのであれば、メディアアートビエンナーレとしては？

いけばなが見苦しかった。正々堂々といけばなをするべき。これではいけばなの精神性を失うばかり。いけばなは暮らしの中にある。まちの中に場を考え、働く人、生活する人ともにあるいけばなを見せてほしい。

大学作品展。なぜ、こんな展示名を出さないといけないのか？

これほど幅広いジャンルを取り入れているビエンナーレはないとガイドブックにあるが、逆だ。これほど、既存のジャンル、カテゴリーにこだわった閉鎖的なビエンナーレはない。

神戸芸術工科大学の作品を見るために、ことし初めて、会場へ行きました（メリケンパーク）。

興味深かったのは、以下のカテゴリー。

- ・韓国・光州作家展 / 中国・天津作家展
- ・障がい者公募作品展（ハートでアートこうべ）

その他は、お金がなかったんだらうなあという事情があまりにも伝わってきてしまう、チープな展示が多かったように思います。（特に書道、生け花など←期待していただけに）

コンテナという閉ざされた空間をいくつもめぐるのも、しんどくて。箱によってはニオイや音がきつく、すぐに出てしまいました。

また、毎年、ポスターなどツール類のデザインに心惹かれるものがありません。行ってみたい、すてきな作品がありそうだという予感を抱けないのは、なぜなのかなあ。見たことのない世界に出会いたい、という期待が大きすぎるのかもしれない。

今回で4回目、4回とも鑑賞しましたが、前回までは驚きと感動で毎回数回足を運びました。しかし、今回は一度。何か前回までのワクワク感がなく、新鮮さがなくなりました。

これは、マンネリだ！と思いました。解決策は分かりません。しかし運営の方法、作品の選考等々、考える必要があるのではないのでしょうか？アート好きの一市民の意見です。

生まれ育った神戸の町で、art と名のつく祭りがおこなわれる事、神戸市民として喜ばしく思っております。第一回から毎回拝見させていただいており、その中でも、LINK は、今の神戸、もしくは近郊で活躍されてる、若手もふくむ作家を紹介する素晴らしい企画だったと記憶しています。また、前回から始まった高架下での展示も、綺麗でオシャレだけではない神戸の魅力を対外的にもアピールする場になったのではないのでしょうか？ただ、場の魅力を活かすのに巨大壁画は、引きの絵が見れず、全体を見る絵よりも、内包する絵に魅力が限定されるのではないのでしょうか？コンテナ展示に対する賛否も耳にしていますが、同様に引いて、全体を見れない書や、絵画、の展示は魅力が半減しているように感じました。

メイン展示のイメージの強いコンテナの展示、インタラクティブや、メディアアートの展示が主傾向ですが、神戸のアート？が、体験型の作品？なののでしょうか？

会場である場合は、後半少し寒いですが、一番最初に他県民、市民が思い浮かべるだろう神戸の景で魅力ある場だと思います。

BBでの展示は、神戸周辺各団体への配慮の印象を受けました。

実際に今、活動、活躍しているはずの、神戸の中堅～若手の顔がほとんどみえない現状に疑問を持っています。神戸ビエンナーレを経験する事で、神戸の町へアーティストや関係者が移り住みたくなるような、育って根付いてゆく様な仕組みに神戸ビエンナーレがなれば良いのにと 생각합니다。

工芸のジャンルでゆえば、今、陶芸コンペと工芸美術作家協会の展示がありますが、協会は、年齢層が高く 45 歳以上のベテランが殆どで、今、神戸で少しずつ育っている若手 20～30 代の工芸家の発表、実験の場や育てる仕組みがビエンナーレにあっても良いのでは？と思います。今年、コンテナ内で発表された陶芸田中さんの展示。ブラックボックスでの展開はたいへん興味深く、ひとつの展開の可能性を感じました。

場としては、神戸の町を周遊する仕組み、長田、北野、六甲、酒処等、をつなぐ仕組みに期待しています。

神戸ビエンナーレには前回と今回行かせてもらいました。

私はヴェネチアビエンナーレには何度も行っていますが、神戸ビエンナーレにはまた行きたいと思いませんでした。芸術のすばらしいところは未来があることです。

新しい見方や考えを発信し人に新たな想像を与えます。

比べるのもおかしいですがヴェネチアビエンナーレでは世界中の人が集まり街全体が盛り上がり芸術を楽しんでいました。ここで私も発表したいと思いました。

神戸ビエンナーレではいつやっているのか、どこでやっているのか駅を降りてから会場までは熱気が伝わらず会場についても閑散とした空気で人があまりいません。

ここで発表したいと思う芸術家は何人いるのでしょうか

私は神戸でギャラリーを開いてから 1 年半程ですが神戸の人が神戸の街に対する愛情はすごく伝わります。

もっと市民が関心を持ち芸術家が街と融合し新たな見せ方を考えなければいけません。

ビエンナーレを今さらするのともうどうかと思っています。

そこで考えたのが 2 年に 1 度のイベントとしてではなく 1 年間に 1 億 5 千万 (これは神戸ビエンナーレの予算の 1 年分)

これを街全体で常に作品が見れる状態に使いたいです。

神戸のギャラリストがディレクターとなり商店街や街頭、店、公園、駅、ビルの壁等市と民間が一緒になって常に芸術が溢れている神戸が理想です。

平面、立体、インスタレーション、パフォーマンス、ファッションショー等。

もちろん伝統芸術も含まれます。

一時的なものではなく人目に触れる場所にどんどん若い作家や有名な作家達の作品が溢れ街の人達と作家が交流をすることにより神戸に新しいコミュニケーションが増えお互いが関心を持ち合えばデザイン都市という名前に相応しい街になると思います。

いつどこでやっているのかよくわからない。印象が薄い。行きたいというインパクトが無い。

長期的な積み重ねで広げるような計画性を感じない。

若手と著名アーティストのバランス。(客としてみた場合)

アートに興味が無い人でも行けるようにしないとダメなのでは？

名前の付け方が違う。

「神戸芸術まつり」などがいいのでは？

横浜ビエンナーレとは成り立ちが違う。

せっかくお金を使うなら神戸を発信出来るといい。「自分たちでやれば」という内容もある。

外からアートを持ち込まなくても神戸にはもともとすばらしい文化が生活の中にとけ込んでいるはずです。

去年のインスタレーションは評判が良かった。なのに負のイメージがNGだったとプロデューサーは返答。

ビエンナーレに多額なお金を使うなら1年ごとに100人のアーティストに100万円のアトリエ補助をしてはどうでしょう？そのかわり年に1回公開スタジオをやってもらう。それらをつなげることで神戸の芸術を見せていけるのでは。

感度のいい人の刺激になるようなものになったらいいがなっていない。

育ちのいい優等生がわざと悪ぶってるような感じ。ビエンナーレに興味がないことがカッコイイ的な空気。

表面的な技術発表ではNG。

メリケン会場、モトコー、会場アート苦勞して本当に運営したのかなという雰囲気。運営のしやすさでしょうか。良いものをつくろうと言う熱が感じられない。

一般の方々からおもしろくないという意見が多く具体的な提案が出来なくて申し訳ありませんが、もう一段の発想転換が必要かと思います。

このままでは一般市民からビエンナーレをやめろと言われる事が近い将来にあると思います。危機感をもってほしい。

モトコーは前回の方が良い。

神戸生け花祭をメインにすべき。開催時間が短縮されてきている。

今回はKITOが完成し大きなインスタレーションを楽しみにしていたが、県美もモトコーも平面ばかりでビエンナーレ的でないと感じた。どこへ向かっていくのか。

デザインフェス、コミケのようなアートフェアを行政がした方が人が集まるし盛り上がる。

もっと地元で根付いたイベントを増やす。

認識度の高いアーティスト、神戸にもっと密着。

神戸をキャンパスに何を描けるのか。

アートイベントとしてわくわくするものを求む。こんなにも人が（100人過）さらに良いもの、魅力的なイベントにして欲しい、したいと思っている。次回また同じ事をするだけならヤメた方が良いと思う。市民をもっと巻き込んだものが出来ないのか。

若手作家の育成、集客が目的、着地点は何なの！土地とやっている事がつながっていない。学芸会みたい。

神戸の人がもっと身近なものと感じられるように。神戸の人がロコミしたくなるフェスティバルに。

地下鉄をアートに活用。ビエンナーレのラッピング電車とか！

中途半端。

本気度が足りない。おもてなしの気持ちが無い。がっかりビエンナーレの No.3 に入る。無いより有った方が良い。市内の全域のアートスポットをつなぐ。

【ビエンナーレの目的に関するご意見】

神戸ビエンナーレをなぜするのか？その目的とするものが見えない。動員数だけでないものを見せることが、アートへの価値ではないか？動員数だけなら、B級グルメ大会でもやっておけばいい。

アートの持つ可能性について、具体的にどの点に着目しているのか、そこを明示する必要がある。例えば、アートによって、使われていなかった場を生き返らせる？人と人がつながる？地域資源の新しい発見？気づかなかった地域や社会の課題を可視化？などなど、アートのどんな力を信じて、どうしようとしているのか全く見えない。それらが明らかにあるならば、展開する場所やテーマも明らかになってくるはず。

今の神戸ビエンナーレは、アートの何を信用しているのか？こんなアートに愛情を感じられないビエンナーレがなぜ存在するのか？だから公募による単なる作品集めにしかならない。現代アートの可能性とは一体何か？作品展示だけにとどまらないアートの可能性が見えていないのではないのか。それが見えないなら、すべきでない。

すべてに中途半端な印象です。先鋭性、大衆性、祝祭性など、強調したい方向性を明確にすべきでは？

これは一体何のためにしているのか？それを語る人は誰なのか？

いわゆる「アート」といわれるものが、本来の意味での芸術的行為ではなく、まるで経済的行為のような所作や商品となってしまっている現在。

「売る」こと「売れる」ことを第一義にするのではなく、表現行為そのものや、そういう表現行為に触れること、作家の表現に至る思想や感覚を追体験することを主眼にしたイベントは貴重だと思います。

神戸ビエンナーレについても、商業主義的になるのではなく、あくまでも芸術表現の場として今後も存在し続けてほしいと願います。

神戸でアートイベントの企画に携わるものとして、神戸ビエンナーレの取り組みにはとても関心があります。そして他の多くのアートイベント同様、多様な意見を見聞きします。なかでも神戸ビエンナーレのアーティスティックディレクター、大森正夫さんがFBで述べられていた「アート概念の拡張」という考え方は神戸ビエンナーレの方向性を端的に表現したものであると拝察しています。この考え方について、アーティスト、美術関係者を含め、さまざまな方のご意見や感想を伺えればありがたく思っています。

以下、大森正夫さんのFBから引用

遠方から来場した自称専門家の中には、これは芸術祭ではなく文化祭だ！とか、現代美術としては評価できない！とか、批判や揶揄する方も若干ながらもいましたが、『神戸ビエンナーレ』は普通の人が普通に楽しみ、精一杯に生きている人たちの最新極めの表現を体感していただける場を提供しているイベントです。先進的で多数な『神戸の文化力』を頼りに、硬直化した『アート概念の拡張』も目指しています。『KOBE』ならではの魅力を、多くの精鋭のアーティストの想いを是非体験していただきたいと思います。

引用終わり

どうぞ宜しくお願いいたします。

事務局の内部でコンセプトが共有できない。

アートプロジェクトの色が分からない。

神戸ビエンナーレそのものの問題意義を（方向性）一度みんなで考えるべき。

とりあえず中途半端で何が目的で方向性が見えない。

なぜ神戸でやるのか？

目指す方向がブレている。現代美術？市民芸術祭？なのか？

根本のコンセプトが大切。何をやるかはそれから。だから宣伝しにくいイベントになっている。

何の為にやっている？

効果があるのか？

ビエンナーレという名前がどうなのか？

観光、集客という枠でアートを使う事に疑問を持っています。

何を目指しているのか。

観光が目的なので仕方がない？

ビエンナーレ側の方向性が見えない。

ビエンナーレとは心が動くものを持ち帰りたく「技術が上手くなりました」という発表の場では悪いのではないか。

来た人が何を帰る事ができるのか？今まであまりそれを感じられなかった。何を目指しているのか見えにくい。

全体の舵取りが出来ていないので何を伝えたいのか全体的に中途半端。

ビエンナーレ自体の目的、意識が見えづらい。

プロデューサーを変える云々よりも主催者の神戸市がどんな方向性を持っているかが見えたら変わりそうですね。あと先生が言っていたようにファンクラブとして、こちらが協力したいと思っているのが伝わったらいいな

と思いました。

芸術を見せようとしているのか他の事をしようとしているのか分散しすぎ。

一般受けする方向 or 本物の現代アート or メディア芸術祭 どの方向にするのか。分散する事は現段階ではマイナス。なにやってるのか（目指してるのか）わからなくなる。

現代アートかエンターテイメントか方向性をクリアにすべき。

【ビエンナーレの質に関するご意見】

公募だけのビエンナーレだと質を確実に確保するのは困難。実際、その弊害が出ている。

ひとつひとつの作品は優れているのに、うまく展示できていない。全体の展示コーディネート力があまりにもなさすぎて、アーティストがかわいそう。

ガイドブックには、新しいアーティストが参加できるよう、時代の声を反映した作品を集めるためにコンペティション方式を採用したとなっているが、ちゃんとしたキュレーターがいればそれはコンペでなくても実現できるのでは？むしろ、それができる人がいないので、コンペ方式になっているのでは？入場料をとって行っているならば、一定のレベルは保たないといけない。コンペではそれは無理。

今回始めてビエンナーレを拝見しましたが、あの展示の仕方はアーティストに対して失礼と思いませんか？私は世界のトリエンナーレやビエンナーレなど多くのアートフェスティバルを見てきましたが、最もアーティストを馬鹿にした展示になっています。あれではアートフェスティバルをやる資格は無いです。神戸の芸術に対する無知と尊敬の無さを世界に知らしている様です。プロのキュレータが参加しているとは思えないプロデュースです。有名芸術大学の芸術際の方が遥かにレベルが高い。参加アーティストの事を言っているのではない。主宰者側の無知と芸術に対する尊敬の無さが展示されている。

また最後の方に増量剤の様に大学の参加や生け花の展示は、まるで街の同好会のおばちゃん達の展示会の様で蛇足には程がある。出展者の中には高いレベルの者があるが、先に述べた町内会の同好会レベルもある。本当に芸術祭をやる気があるのか。アーティストが参加し憧れない様なフェスティバルは成功しないだけでなく、その街の文化度の低さを広報しているようなものだ。もっとアーティストに敬意を払えるプロの実行委員会を望む。単なるイベント屋がやっている様にみえる。

地域外に PR 出来るような吸引力のある作品がない。

集客できるような仕組みを感じない。有名人、アヒル、クルーズ等

今のままならビエンナーレを文化祭にした方がいい。

どういう経緯で作品が選ばれているの？

展示が稚拙。

良い噂を聞かない。

一般の方がおもしろくない。

毎年成長しているのか？

メディアアート（大友克洋）の展示もひどい。

世界的なビエンナーレ、トリエンナーレとはレベルが違う。

芸大の学園祭の方がレベルが高い。

東京でもコンテナ展示があるがレベルが10倍以上。

これが「現代美術」と一般に思われるなら残念。

行政には集客数やマスコミ評価しかできない。誰がクオリティの評価をするのか？

クオリティ問題。

公募して決めている人の基準が無いのでは？

質が上がらない。

【ビエンナーレの場所に関するご意見】

温暖化の激しい昨今、空調のないコンテナでの展示は、もはや限界。インドア会場に切り替えるべき。

コンテナ会場はやめ、モトコーや兵庫県立美術館などインドアの施設に会場を絞るべき。

これまで評判がよかった海上アートや元町高架下など、神戸ならではの地域資源を活かした開催場所を考えるべき。課題を抱える地域をまわってだけでも、神戸らしい多様性が確保できる。

コンテナはもういい。作品もパターン化してきている。アーティストも最初はおもしろがっていたかもしれないが、もうウンザリでは。

もっと、開催場所を変えていけば、神戸の多様な顔を持つ街の姿も見てもらえるのでは。

コンテナは明らかに表現の幅を狭めている。

コンテナの良さはどこに活かしている？メリケンパークの気持ちよさをこれだけ殺す意味は？

元町高架下は場所としては、おもしろいのに、なぜ、ペインティングアートに限定した？コンテナもそうだが、場とアートの関係をどう考えているのか？意図がわからない。

コンテナにアートをとじ込めているので外の海の景色を生かせていない。

ヴェネチアビエンナーレでは街中アートでおもしろかった。

ビエンナーレという名称でよいのか？KIITOをつかっては？

期待が大きいけれどフタをあけると残念な例が多かった。コンテは手づまり。

街に溶け込む方が良いのでは？

コンテナの意味は？

街を生かしたアートになってない。

KIITOを使う。

ひとりの特定のプロデューサーが毎回ビエンナーレをやる事は聞いた事がありません。コンテナ自体アーティストにとっては大変限定された窮屈な空間です。自由な豊かな表現は不可能です。

コンテナの良さ？

雨の日にみれない

開催場所の範囲。

コンテナ→一定条件のおもしろさ。

コンテナでの展示は暑く意味付けも微妙。

コンテナの意味。何をしたいのか目的意義がハッキリしない。DeepなZoneにあればいい。雨天でもOK。2つのメイン会場。いろんな所でやる。街中にオブジェ作品。有名アーティスト等を目指すのか。地元市民がやる。

中心となる場所を。三宮駅近に。

モトコーインスタレーションの却下 →プロデューサーの判断？

コンテナでやる意味が分からない。

町中をもっと活用。

コンテナはやめるべきだ。

ヴェネチアビエンナーレや龍野ビエンナーレのように、その土地の特有の風景や建物を利用し、生かした作品展示にしてほしい。作家やサポーターに任してほしい。

ビエンナーレ会場について、神戸の魅力が十分に見えていないので、例えば神戸の町中、神戸の良さが伝わるような場をアーティストに見出してもらい作品に結びつけてはどうか。

コンテナは作品が制約されるため類型化するのでは？

高架下の展示はおもしろかった、やはり人の生活空間での展示がいい、わざわざコンテナのある広場へ行くのではなく。

【ビエンナーレの体制に関するご意見】

私は一度もいった事がないです。来場動員数20万人ということで普段アートに興味がない人もたくさん来ているという事でイベントとして成功していると思います。ですが普段から私を含めアートに関心ある人が見に行ったりとかおもしろかったなど、自分の周りではあまり聞きません。それはなぜなんだろうと。コンテナや元町の高架下での展示など神戸独自だと思うけど、見に行こうと思わない。キュレーターがいない点が問題だと思います。総合プロデューサーに生け花の人がやっているようで生け花がだめとかいっているのではないですが。美術に対してよく知っている人がトップでやるべきだと思います。現代アートだけやっているのかといえば大道芸や生け花など混ざっている点で美術の歴史、世界に知られるアートイベントとして取り上げられるようには、なかなかないと思う点など見に行かない理由のひとつだと思います。ひとつひとつ見ればおもしろいものもあるのだろうけど、全体的に見て興味がないのだと自分は思いました。ひとつひとつ見るのだったら美術館にいったらゆっくりみれば良い話です。

公募だけのビエンナーレだと質を確実に確保するのは困難。実際、その弊害が出ている。

メッセージ性の乏しさについては、公募を絞って招待作家中心に切り替えるほか、多頭政治を改めることも必要。組織が頭でっかちになり過ぎ。

組織委員会、企画委員会、ボードメンバー、ディレクターと、上層部の方が何十人と多い。いわゆる「会議は踊る」状態で、これで明確な方向性が出る方が不思議。

企画は一人のパワフルな芸術監督に全権を委ね、トップダウンで行うべき。プロフェッショナルで著名な作家、あるいはキュレーターに、思想性のある明確な企画を立案してもらい、その指示の許に動く。そうでなければ、いつまでも現状の総花主義からは抜け出せない。

なぜ？いけばなの人が総合プロデューサーなのか？理解できない。日本文化の良さを取り入れたビエンナーレにしていくつもりであればその理由もうなずけるが、それも見えない。今の体制なら、いけばなビエンナーレにした方がわかりやすい。

そもそもキュレーターがいなくて、展示イベントをしようとするのがわからない。今までのキュレーションを否定するのであれば、それを変える信念を感じさせる体制について説明をすべき。

ビエンナーレは変化していく中で時代を映し出すもの。ディレクターも代わっていくべき。このままの体制ならば、いけばなビエンナーレにするべき。

いけばなの人がトップにいることは、日本的で期待感も持てる。しかし、期待する調和的なしつらいが感じられない。各ジャンル際立たせる神戸ビエンナーレは、ある種多様性を見せているようだが、日本的な謙虚さが感じられず、いけばなの人が何をしようとしているのかわからない。

アーティストの誰もディレクターのことを知らない。ディレクターとアーティストがこんなに離れていて、ディ

レクターは何をしてる？

性格から先鋭性の強調は無理と思うので、ディレクター制を廃し、プラットフォームの整備に徹したらどうだろう？

アートに特別なおもいれもない人たちが集まって開催されていることが感じられる。それもみんなに見透かされていると感じる。まずは、アートを本当に信じている人がトップに立つべき。

ディレクターが固定しているのが問題。毎回マンネリになっている。

ディレクターの存在をもっとはっきりさせる必要がある。

知っている人がやっている。

ディレクターが固定されている。

県立美術館館長などの専門家は作品の審査しか参加していない。企画には加わらない。

プロのキュレーター等か関わっていく方が良い。

スタッフのガイドが役不足。

ボランティア？イベント会社？運営形態がわからない？

作品のガイドも無くスタッフが不在。

運営体制→市→イベント会社 現場のプロがやっていた。

ディレクター固定？なのでしょうか？

1-4回は同じプロデューサーだがトップが変わる可能性は？選任法が分からない。次回、別の芸術監督を公募するなら新たな人へ任せるべきだ。

神戸ビエンナーレ事務局は組織の形態をあきらかにするべき。本気でこのイベントに携われないならやめた方がいいと思います。

総合プロデューサーの交替。

何故ヒエラルキーのある吉田プロデューサーの構造を変えない限り、マンネリ体制、保守的ビエンナーレは変わらない。何故固定なの？

本当の国際ビエンナーレにするにはすべて体制そのものから改変するべきだ。

プロデューサーはアーティストを世に出す役目。アーティストはイベントの呼び物として使い捨てのようにならないか。神戸ビエンナーレは瀬戸内とは違う形で発達して欲しい。出品した事がアーティストのその後につながるようにして欲しい。神戸ビエンナーレを生け花の祭典にするなら吉田プロデューサーで良い。

大賞、準大賞をとった作品と市民が見た人気、おもしろかったの評価が違うのでちゃんと評価できる人を審査に選んだ方がいいのではないかな？

感度の高いプロのデザイナーを総合プロデューサーに雇うべきだ。

総合プロデューサーを変えるべしにつきる。

総合プロデューサーを変えてほしい。

イベントではデザインのプロの力をかりる！！

プロデューサーをクオリティをコントロールできるプロに。

【ビエンナーレの連携・参加に関するご意見】

地元でもいろんな現代アートの活動をしている団体があるが、全然連携しているように見えない。なぜか？アートは他者の視点であり、あえて地元を入れていない というなら、なぜ、いけばなや絵画などだけ、地元の作家が参加しているのか？地元アーティスト、市民、市外からのアーティストという相互的な影響がビエンナーレに期待されるのでは。

今の神戸ビエンナーレは、ボランティアとパートナー関係でつくっていかうと気がみられない。現代の芸術祭におけるボランティアは、単にお手伝いでなく、パートナーである。そこに身をおけるボランティアは、創造力を育む大きな経験となり、それもビエンナーレとしての大きな成果となるはず。そういう参加機会を積極的につくるべき。

以前のビエンナーレで、ディレクターがボランティアの仕事を下働き仕事といった言葉がすべて。そんな意識で人がつながっていくはずがない。

今回、ボランティアがシフト制であまり交流出来なかったと聞いた。ボランティアの自発的な活動が出来るようにしてほしい。モトコー等。

ボランティアがトップダウンで作業を与えられるだけで作業以上をこえられない。誰を対象にしているのかわからない。

ミラノサローネのようにプロと市民と一緒に盛上げていくようなものになって欲しい。

神戸市が主催なので民間の声が上がらない。

「サポートしたい」と思っているボランティアの方が、独自に何か表現参加できる企画もしてほしい。

企画側と作家側のコミュニケーションが不足。

生活美術を入れているのに市民の意識が低い。市民文化祭ならそれでもいいのでは。

関係性が地域とつくれてない。

ボランティアスタッフの動きが見えない。(スタッフ内でも)

ボランティアとしてみると

運営体制にビエンナーレのコンセプトや大事な軸が浸透していない。(トップダウンの体制)

現場でボランティアとスタッフ←わからない このつながりもある。

説明も無い。客としてのビエンナーレのつながり役にならない。作家との交流無し。

市民って誰？

アーティスト内々だけでかたまってるかんじ。

作る人⇔見る人との共有ができにくい。

アートに内向きな人達のもの ノーデザイン

「まちづくり」「人づくり」とうたいながら市民、ボランティアの人の力、まちの力をどのように活用出来ているのかという思いがあります。

市民の力をもっと活用してください。ボランティアスタッフは「無料で使える」だけのものではないです。

地域資源を継ぐ事。新長田、灘、六甲、塩屋に。

2009年、神戸ビエンナーレに作家として関わらせて頂きました。当時神戸アートサポーターズというボランティアの活動のおかげで街中のプロジェクトが成功を収める事が出来ました。アーティスト、ボランティア、地域、社会の関わりがもっと密になる機会になればと願っています。

市民や街のお店等への配慮が無い。参加アーティストでさえ展示すればおわり。展示に関わっていないアーティストが入る余地がない。ギャラリーの方々やアーティストの方に協力を得られない。

今後の事を考えていくためのネットワークが出来るといい。点が編み目になって濃いものがつながっていく。アーティスト、拠点と連動がきちんとできる可能性はある。

周辺イベントと事務局、メインイベントとのつながりが薄い。

教員をしている者ですが中高の生徒に参加の場を。(クオリティを保つ工夫は必要)モチベーションを上げる為には著名な人、企業、ブランドが必要アリ。中高生は実はこれに目がない。

ボランティアの力をもっと利用すべきだと思います。無償であっても手弁当でも参加したいという人がいるのに、その力が集められていないのがとてももったいない。

ボランティアと作家、ボランティアとボランティア、ボランティアと事務局。すべてのあるべき関係がコーディネートされていない。イベントへの関わりが表面的なものになってしまった。2011もヒドかったが2013は100%タダで使えるお手伝いさんあつかいだった。

【ビエンナーレのアーティストに関するご意見】

こうしたビエンナーレを見ていて危惧するのは、アーティストがどんな意思を持って参加しているのかという点である。イベントのために表現をしているのなら、とっととアーティストを辞めた方がいい。

アーティストに聞きたい。なぜ、参加しているのか？なぜ、ここで表現しているのか？運営者側の問題が多いと思うが、そこにアーティストが何の意思表示もせず、受け身だけになっているとしたら情けない。

【ビエンナーレの集客に関するご意見】

話し合ったメンバー6名

神戸ビエンナーレをしっかりとみた1名 少しだけ見た 2名 全く観ていない 3名 何故参加しようとし
ないのか？ 足を運ばせようとする仕組みがあるのか？

人が来ているのか？

人はもともといるし。

文化祭、学芸会に名前を変えた方が人が集まる。

モトコーの人数カウントで通り過ぎた人だけでもカウントすると 36 万人の入場者の数字が納得出来た。

神戸ビエンナーレの来場者数が 30 万人超えたとか、瀬戸内国際芸術祭が 100 万人超えたとか、なんか派手な数字が出てますけど、そういう数字の持つ説得力もわかりますが、アートはもっと違う次元で勝負してますよねー。そこをもっと注目してほしいし、注目させていかないとアートがダメになるんじゃないかな。

余談ですが、神戸ビエンナーレも瀬戸内のどちらもダブルカウント、トリプルカウントしたあてにならない数字同士だと思いますが、実際、どちらも訪れてみて感じたことは、瀬戸内は確かに賑わっていた。船やバスが満杯状態でしたしねー。神戸は、数字にあるような賑わいはかけらも感じられなかった。バスも運行していたらしいけど、ガラガラという話。

なので、やめませんか？こんな数字出すのは？意味ないですよ。恥ずかしいだけです。みじめなだけです。おそらく主催者は本当のことはわかっているはず。きっちり偽りなく出していくことから始めないと。みんな見抜かれていますよ。マスコミもそこに鋭くつつこんでほしいなあ。そういうのマスコミの仕事じゃない？

有料チケットの販売実績の傾向を見ればすぐにわかるような気がする。

【ビエンナーレの広報・発信に関するご意見】

時期が分からない。

広報宣伝のビジョンを明確にしたい。

宣伝物がダサイ。

知ってもらおう認知度。

どこ発信か。

何をアピールするのか？

西宮船坂→住民からのベクトル→神戸はどこ発信？

いつどこでやってるのか？広報周知が足りないのでは？

ブックをめくったら中身に興味をそそられない。

フライヤーのデザイン性の問題。いかに魅力的か（入口）

ポスター、宣伝→行きたいと思われたい。知らない。

センター街や町中に広告のように作品を置く。

きれいな神戸を大事にするアピール。

宣伝が上手くいってない。

見せ方がかっこよくない。ダサイ。

発信者の想いが伝わってこない。

一般的な所に浸透していない。

大好きな地元神戸に関して神戸の人達の関心度を高める Real I Love KOBE!

Web やチラシ等のデザインは誰がやっているのか。

人が集まる広報 PR をしないと認知されない。駅の近くにいる人がぼかんとした顔をしているのを見て悲しくなった。

広報を今回のように大学の授業に利用してはいけません。販促はとても大切なものです。入札もして下さい。

しっかりプロにかかわってもらい宣伝。

【ビエンナーレの予算に関するご意見】

会場を集約して規模を絞り、そのぶん作家招聘にお金をかけるべき。
誰もが知るスター作家の招聘は必要不可欠。

3億円はどこへ。

無駄が多い。

3億円は一体なににどんな風に使われているのか？プロデューサーもアートディレクターもボランティアで一切お金はもらってないとの事ですが不思議です。

【ビエンナーレの検証に関するご意見】

前回のビエンナーレの報告書に基づく今回の検証が必要！

.....

ちょっと外から見れば、今の神戸ビエンナーレがどんな状況かすぐにわかるはずです。本当にこのままでいいんですか？本当に評価されているんですか？単なる見解の相違というレベルで済まされるものなのですか？どこをどう見て評価されていますか？私たちが見えていないだけでいいですか？それにしても、あまりにも評価されなさすぎです。日経新聞の記事にも、今年秋に開催されるアートイベントのトップ 10 にも入っていませんでした。六甲ミーツ・アートは入っていました。他のもっと小さなイベントが選ばれています。なぜだと思いませんか？私が思うには、集客や質とかの問題よりも前に、何のためにこのイベントをしようとするのか、その目的とか思いがはっきりしていないからだと思います。この現状をどう見えていますか？この状況を認識できないなら、体制を総入れ替えしてください。検証委員会もあると聞きますが、その人たちも自分の目や耳で何も確かめなくて、単に事務局からの報告書に基づいて評価しているんだとしたら、大きな罪ですよ。神戸市民として許せません！

.....

ビエンナーレ?? 評価基準 何?

.....

どんなビエンナーレにしたいのか一度止まって考えてみては？その時は作家の意見、協力も得てほしい。

.....

アートに関してはまるで素人なので、自身の経験でしかお話出来ないのですが、1985 年に旧居留地の大正時代に建てられた、大興ビルでお店を始めた当時、多くのマスコミから注目されました。

.....

当時から保守的と言われていた神戸の意外な許容に驚きもしました。

.....

まだ古着屋の概念もなかった時代、とにかく、"見た事もない新しい訳のわからなもの"に対しての、周囲の反応が大きかったように思えます。

.....

その"見た事もない新しい訳のわからないもの"は時代によって変化し、進化し続けるものだと思います。

.....

何かを継続させる場合、前と同じようにする事自体が後退する事だと思います。

.....

何にせよ毎回いちから全て見直し、いかに前回の記憶を消すかが、継続的進化に繋がると思います。

【ビエンナーレの実施時期に関するご意見】

このあたりで一回休んで仕切り直しては？

トリエンナーレでも4年に一回でもいいのでは？

準備期間をもっと持てば良いのでは？

【今回のこの集まりに関するご意見】

とりまとめご苦労様です。

ビエンナーレに関しては、神戸っ子だからこそその賛否両論があって然り。

事務局も事務局なりに大変な苦勞をして運営されております。

この会が建設的な意見の場となり、次回開催に生かされればと思っております。

非常に有意義な会を発足されたことに感謝。

まず一重に続けている事が素晴らしいと思います。

アート好きからすると改善したほうがいいところや批判は聞くまでもなく多くあると思います。

しかし、今回も神戸ビエンナーレを俯瞰的に観賞して思うのは来場している人の中にはこのビエンナーレを楽しんでいる人も多くいるということです。

アーティストや地元の神戸で活動する当事者からすれば面白くないと活動している私も思います。

そして、私が思っているのは、今回のこの集まりがあり多くは批判だと思っているのですが、だったら行政に語りかけるのではなくビエンナーレ事態が公式に許認可のいるイベントではないのでこの機会に集まった皆さんでやったらいいんじゃないかと思えます。

結局のところ榎忠さんなどを使って行政に語りかけるのでは、所詮やっていることは行政となんら代わり映えはなく、ビエンナーレで使われている3億円の予算を私たちにも還元してくれと言ってるだけに思いました。未だ一世代前の人に頼る自分達を危惧したほうがいいのではないかと思います。

内部でこういった会合をもたれたらと思います。次回のビエンナーレたのしみにしています。少しでも神戸に協力出来るよう、力添え出来るよう私も頑張ります。

この会のように現ビエンナーレの非難やディレクターの感性を批判することより、もっと前向きな提案をしていくべきだと思います。「公」が指揮するのではなく住民（私達）が多くを感じ与えられるように、建設的な方向性を望みます。そもそも今回のビエンナーレは「1つの芸術祭」としての設計やデザイン自体が無く。市民とアートの魅力の力が無い事に問題があります。お互いが歩みよりたい姿勢を持ち神戸におけるアートとは何かを見つけるべきだと思います。アートは誰のものでもなく日常にも非日常にもあるもの。

本会を通じて神戸内外には神戸ビエンナーレを愛してらっしゃる方がたくさんおられることを知り嬉しく思いました。再来年の開催を楽しみにしています。

ビエンナーレ関係者が1人も参加していない事。集まりの主旨をしっかりと伝える事が出来たのか。集まった、議論したという事実だけでは何も変わらない。主催者の目指すものはなにか見えない。ビエンナーレをよくしたいと言うが結局ビエンナーレという既存する事柄に乗っかるだけの結果になる気がする。

ビエンナーレの廃止を視野に入れた議論が必要。

何故ビエンナーレを運営している方々がこの会に来て下さらなかったのですか？質問の先がないと話が進みません。次回はずひ。

やっぱり市には組織として声を出していかないとダメ。個人ではダメ。「団体」となれば市の対応も変わってくる。

結局この会合の主旨がよくわからない。神戸ビエンナーレを続けさせることは前提として意見収集したいだけなのか。やめてしまえという意見もありで、よりよいアートイベントにしたいのか。ただのファンクラブなのか。

実際に運営、主催、ディレクションしている人と話せる場が欲しい。市民の声をちゃんと聞いてほしい。

生活の中へアートを溶け込ませ人との生活の中にアートの存在感をつくる。対立ではなく対話の手段とされるようにこの会も進めていってください。

【その他のご意見】

回遊マップ

絵を飾る習慣。

市民向けの公開講座。

デザインとクラフト

違和感

ビエンナーレを神戸で開催すること自体考え直したらどうでしょう。

アートに興味の無い人。

神戸でする必要性。

神戸らしさ。

有料によってアートに興味が無い人は入らない。

行こうという動機（興味）が持てない。

アーティストと芝に？

スタッフによる作品解説が無かった。
